

絵画修復家の アトリエから

加賀優記子……絵画修復家

2003年になって、初めての原稿です。明けましておめでとうございます。と言っても、実は今日は大晦日でまだ年は明けていません。この時刻、世の中の人は最後に買い忘れた蒲鉾なんて買いに走っているんでしょうけれど。私はお正月は別に特別の事をしないことにしているので、気が楽です。

2002年の一年間は、テロ以降いつアメリカが戦争を始めるのかとついCNNばかり気にしていました。でも、なんとか平和のうちに終わりそうです。出来れば、平穏に世の中が続いて欲しいですね。でなくては、きつとイラクでクルド人はまた虐殺されるでしょうし、天然痘が世の中にはまかれるかもしれないし、またオイル・ショック

クのような経済が来てしまうかもしれない。脆弱な体質に陥ってしまった日本なんて、石油が高騰したらとってもやばいのではないかしら。

このコラムで、何か画材に関する、または画材業界に関するお話を、というリクエストを受けているのですが、どうやったらもつと画材が売れるのか、という見解も、どんな画材が良いのか、ということも考えるだにむづかしくてよくわからないような気もするし、一口には言えそうにありません。

この不況の、デフレの中、どんなものを販売するのだからとでも大変だと思えます。よく、デフレ・スパイラルという言葉が最近耳にしますが、しかし、物が売れない↓値段を下げる↓粗悪品になる、という図式には画材がなっていない事を祈るばかりです。

でも、日本人はすでに良質の製品ばかりに囲まれて、大変目が肥えているでしょう。画材だって安かろう、悪かろうではむしろ売れない。例えば、絵具をはじめてしまうような粗悪なキャンバス地では、画き応えが変なことは絵を画き始めたばかりの人だって感じ取ってしまう。妙にネットネット混ぜ物ばかりの油絵具じゃあ色がつかない。こういう悩みも、カルチャーで教えていた初心者が訴えてきた問題です。結局、そういう粗悪品は、

2回間違っても買われても案外続いては購入されないのだ、というのは教えていた時の実感です。

フランスにいた時は、周りが凝り性の絵描きの友人ばかりで、よくカフェであそこの絵具がいい、あそこのあれは使ってみた？という会話ばかりしていました。パリに着いたばかりの時は、先輩のお兄さんが、僕ね、ブロックスの絵具をやつと買って使ってみたんだ、すごくいいよ、(彼はものすごく貧乏だったので、いつも小さいチキンを一つ買ってはず野菜と丸ごとゆでて、それを4日近く続けて食べる、と言う事を繰り返していた人だった。)と言った時、まだルフランやレンブラント以外、日本の絵具メーカーしか知らなかった私は、それがどんなにいいものなのかを彼のうっとりした目つきから知りました。

早速、レーキ系の絵具を一本買ってみた。(私もまたものすごく貧乏だった！そして絵具の良さ悪しを知るにはレーキ系が一番てつとりばやい。)本当だ、なんと密度の濃い顔料の分量だろう。色合いも、とてもいい。ちょうど、ルーブルで模写をやっていた絵に使ってみた。もうそれだけでなんだかそれだけでもう上手いといった気がした。(単純！)

それと、そのお兄さんはわざわざオランダまで父と息子でやっている、顔料、絵具製造の小さな工房を探して尋ねていった話をしてくれた。この

顔料が凄く優れていて、ブロックスもそのを使っていたんだ、と。(本当にそうなのかどうかは私は知らない。)でも、そこがたたまれて、もう手に入らないのだという事。

その話を聞いてから数年後、ある日パリ郊外の小さな蚤の市を冷やかしていたら、黒い箱にほんの少しの絵具のチューブが並べて売られているのを見つけた。そのラベルにはこう書いてあった。

[HOLLAND CLASSIC OILCOLOURS, SCHEVENINGEN]。



パリ郊外の蚤の市で買った絵具のチューブ。[HOLLAND CLASSIC OILCOLOURS, SCHEVENINGEN]と書かれている。

売っている人の話では、「これはとても質のよい顔料を作る工房が製造していた絵具で、以前に製造が絶えてしまった。それを買ったためだ。絵描きの友人から買い取って売っている」のだそう。これがきつと、その絵具なのだ、という気がして私はとりあえず全部買ってみた。といっても、ウルトラマリンや、茶系が少し。でも、ブロックスなみに質がいいように感じる。これが、その友人が話していた絵具なのか。

きつと絵具会社の方はこの話の真偽や、この絵具チューブの事はご存知でしょう。私のほうが不勉強で今までに至っている。

いつの世も、いいものはなかなか手作りによってしか作られない。カメラのレンズだって、時計だって究極のものは人間の手によるしかない。それ程、人間の手の感覚は優れているのだ。だが、そういうものは世襲であるため、なかなか続かない。残念なことだ。そうした手作りのものが持つ、良質さを出来るだけ効率よく造る事にこだわることだ。結局「口コミのヒット商品」には繋がられないのだと思う。

ところで、このコラムを読んで、この絵具が本当にその親子のものかどうか、または何かご存知の方がいらしたら是非、教えてください。それで、今年も、よろしくお願ひ致します！